
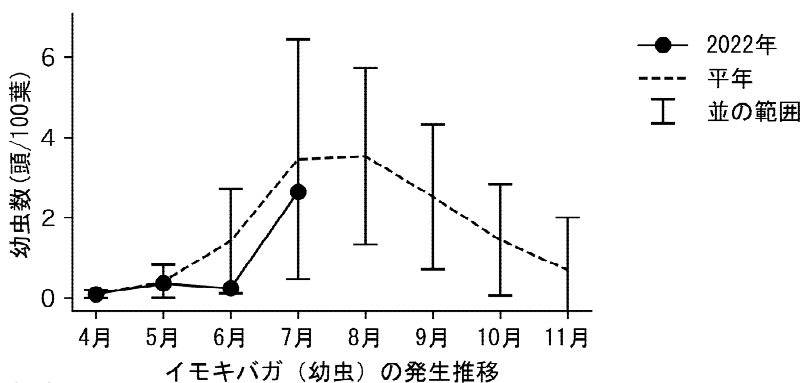


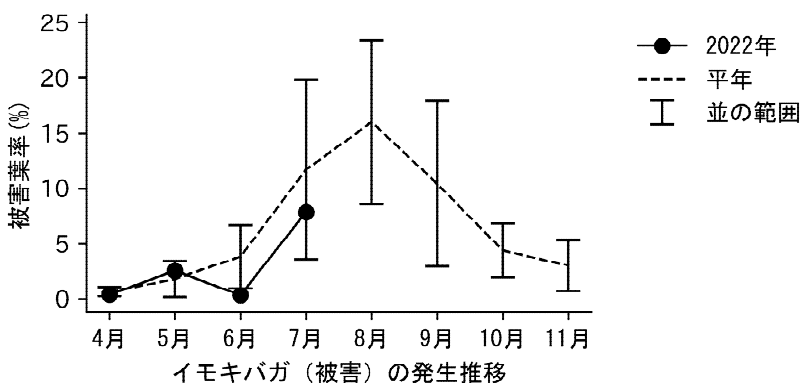
作物	カンショ	地域	沖縄群島
病害虫名	イモキバガ		
調査結果	7 月の発生量 (平年比)	並	
予報	7 月からの増減傾向	→	
	8 月の発生量 (平年比)	並	
予報の根拠		平年の発生量の推移 (→)	

調査結果

今期と平年の推移



今期と平年の推移




・発生ほ場率100% (平年 : 72.1%)

防除のポイント

- ・老齢幼虫になると薬剤の効果が低下するので、若齢期の防除が重要である。
- ・つづられた葉の内部に潜んでおり、直接薬剤がかかりにくいいため浸透移行性のある薬剤を使用する。

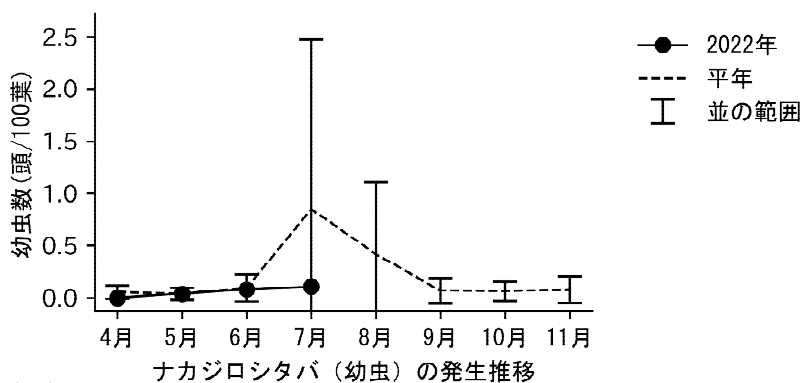


被害葉 (つづられた葉)

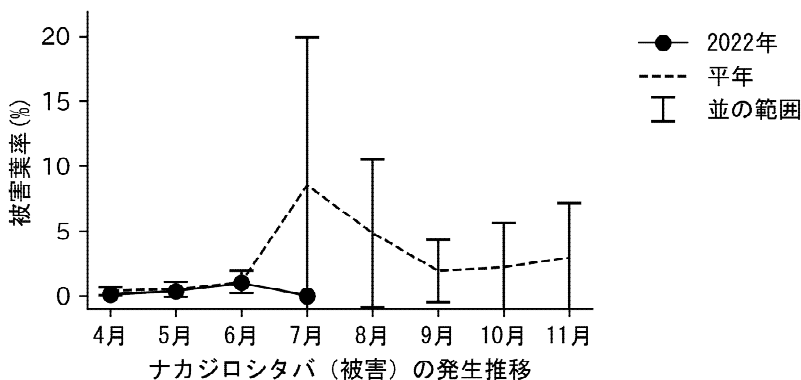
作物	カンショ	地域	沖縄群島
病害虫名	ナカジロシタバ		
調査結果	7 月の発生量 (平年比)	並	
予報	7 月からの増減傾向	↘	
	8 月の発生量 (平年比)	並	
予報の根拠		平年の発生量の推移 (↘)	

調査結果

今期と平年の推移




今期と平年の推移



・発生ほ場率12.5% (平年 : 32.8%)

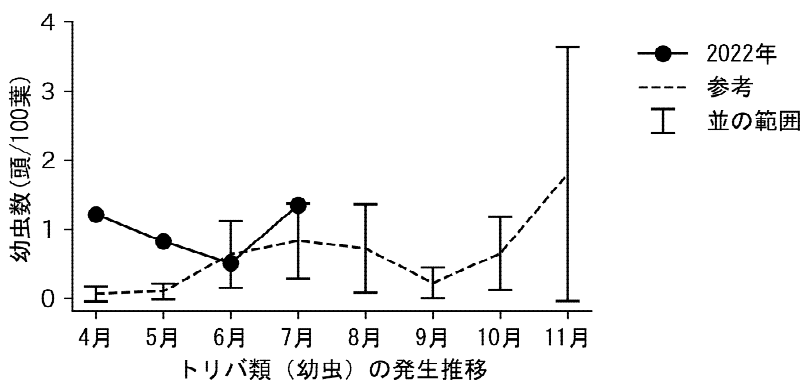
防除のポイント

・老齢幼虫になると薬剤の効果が低下するので、若齢期の防除が重要である。

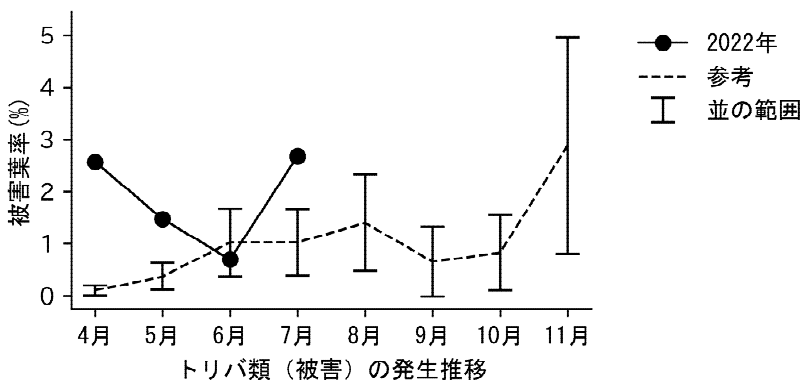
作物	カンショ	地域	沖縄群島
病害虫名	トリバ類		
調査結果	7 月の発生量 (平年比)	並	
予報	7 月からの増減傾向	→	
	8 月の発生量 (平年比)	並	
予報の根拠		平年の発生量の推移 (→)	

調査結果

今期と平年の推移



今期と平年の推移



・発生ほ場率75.0% (参考 : 55.6%)

防除のポイント

発生初期の防除が有効であるので、被害葉が出はじめたら、薬剤散布する。

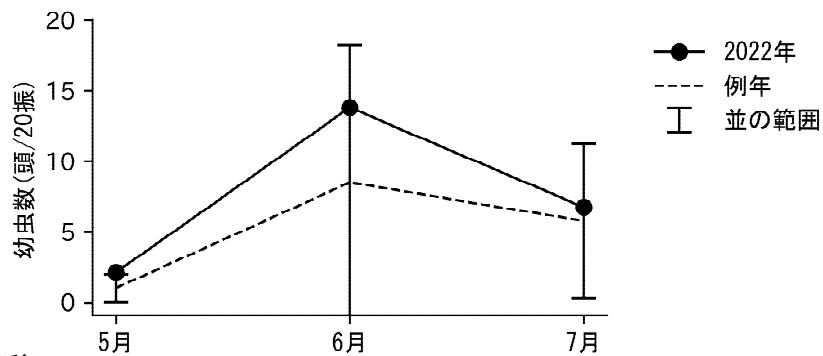


被害葉

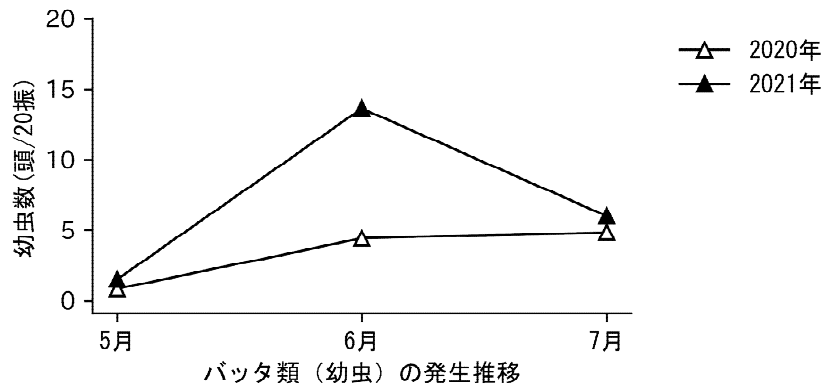
作物	さとうきび	地域	沖縄群島
病害虫名	バッタ類		
調査結果	7 月の発生量 (平年比)	並	
予報	7 月からの増減傾向	—	
	8 月の発生量 (平年比)	—	
予報の根拠			

調査結果

今期と平年の推移




過去2年の推移



・発生ほ場率75.0% (例年: 72.2%)

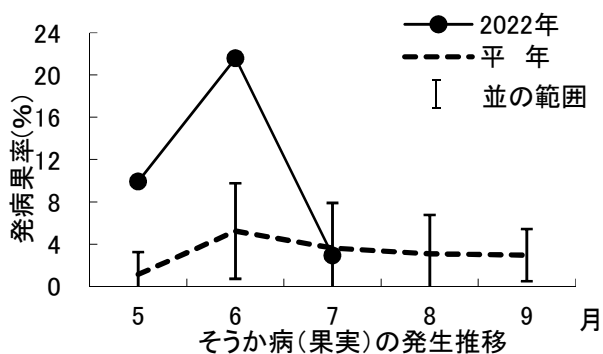
防除のポイント

- ・発生源となるほ場及び周辺の除草を徹底する。
- ・成虫防除を実施する場合には、活動の鈍い早朝に一斉防除を行うと効果的である。

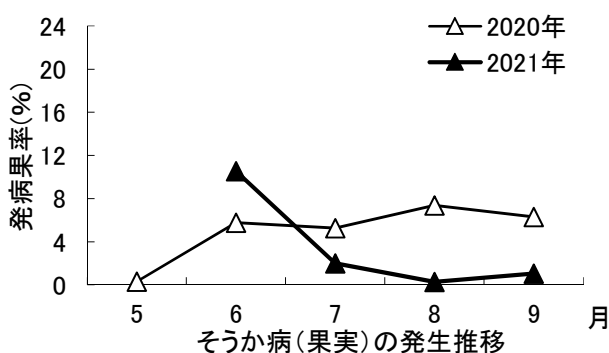
作物	かんきつ（温州みかん）	地域	沖縄群島
病害虫名	① そうか病		
調査結果	7 月の発生量（平年比）	並	
予報	7 月からの増減傾向	→	
	8 月の発生量（平年比）	並	
予報の根拠		平年の発生量の推移（→）	

調査結果

発病果率：今期と平年の推移

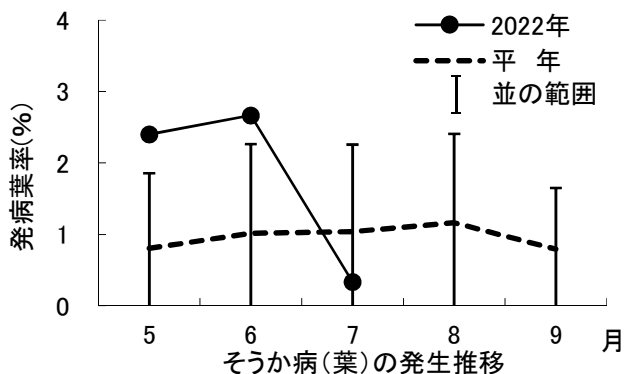


発病果率：過去2年の推移

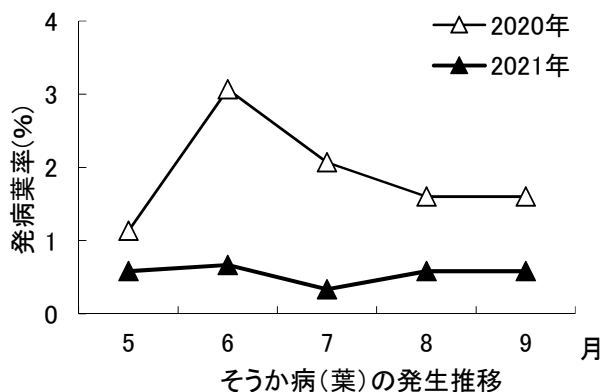


・果実の発病度 0.9（平年1.3）、発生ほ場率 20.0%（平年48.5%）

発病葉率：今期と平年の推移



発病葉率：過去2年の推移




・葉の発病度 0.1（0.4）、発生ほ場率 20.0%（平年42.9%）

防除のポイント

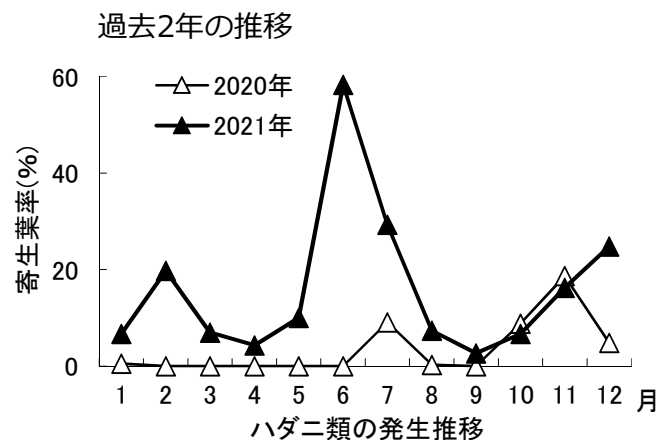
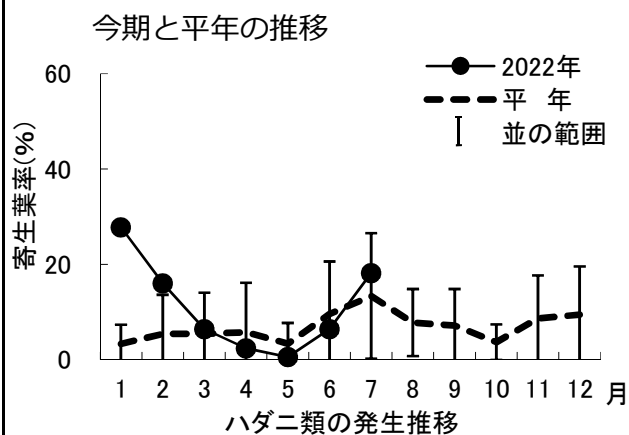
・罹病葉・枝は伝染源になるので除去する。

被害葉→



作物	かんきつ（温州みかん）	地域	沖縄群島
病害虫名	② ハダニ類		
調査結果	7 月の発生量（平年比）	並	
予報	7 月からの増減傾向	↓	
	8 月の発生量（平年比）	並	
予報の根拠		平年の発生量の推移（↓）	

調査結果




- ・発生ほ場率 80.0%（平年38.1%）
- ・病害虫防除員の報告によると発生程度は多であった。

防除のポイント

- ・薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。

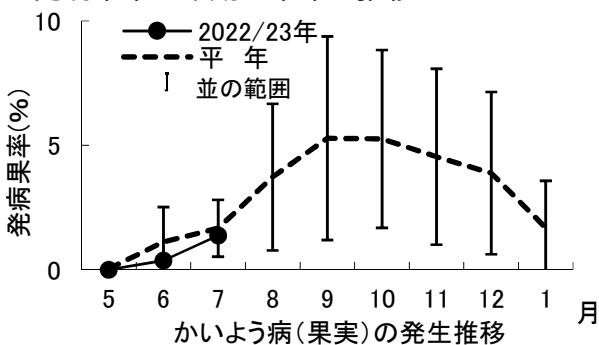


ハダニの寄生による葉のかすれ症状

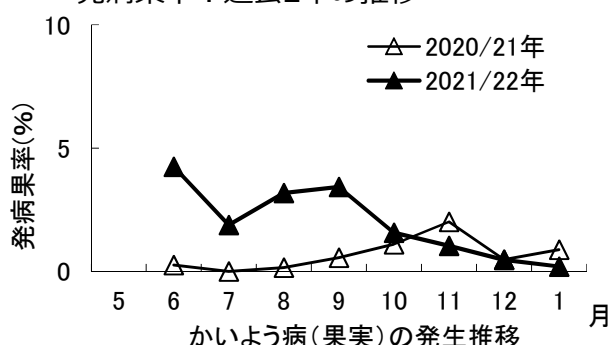
作物	かんきつ (タンカン)	地域	沖縄群島
病害虫名	① かいよう病		
調査結果	7 月の発生量 (平年比)	並	
予報	7 月からの増減傾向	↗	
	8 月の発生量 (平年比)	並	
予報の根拠		平年の発生量の推移 (↗)	

調査結果

発病果率：今期と平年の推移

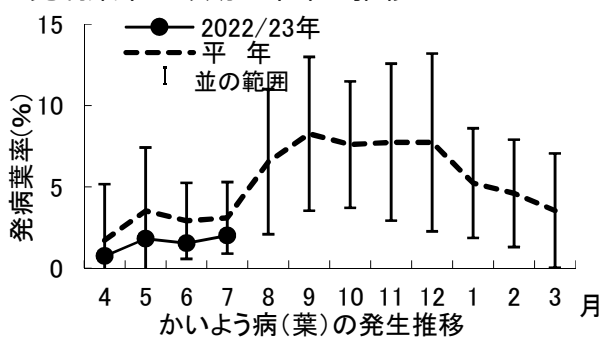


発病果率：過去2年の推移

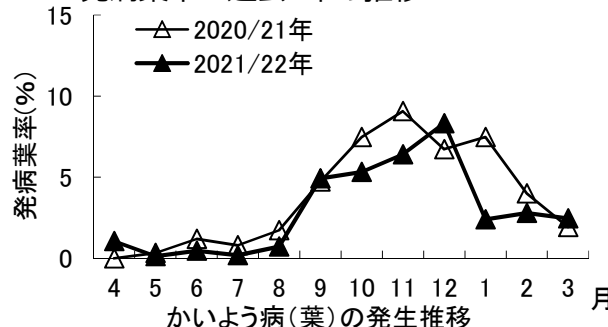


・果実の発病度0.3 (平年0.4)、発生ほ場率60.0% (平年68.6%)

発病葉率：今期と平年の推移



発病葉率：過去2年の推移




・果実の発病度0.4 (平年0.7)、発生ほ場率60.0% (平年71.4%)

防除のポイント

- ・本病はミカンハモグリガによる食害痕から発生しやすく、翌年の伝染源になるので、ミカンハモグリガ被害葉の除去に努める。
- ・罹病枝などの病斑が伝染源となり、台風による葉や枝の傷口 (風傷) は感染を助長することから、台風前後ともに薬剤防除を行う。

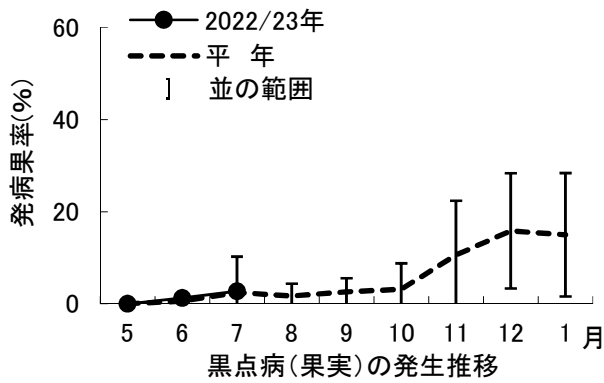


被害葉→

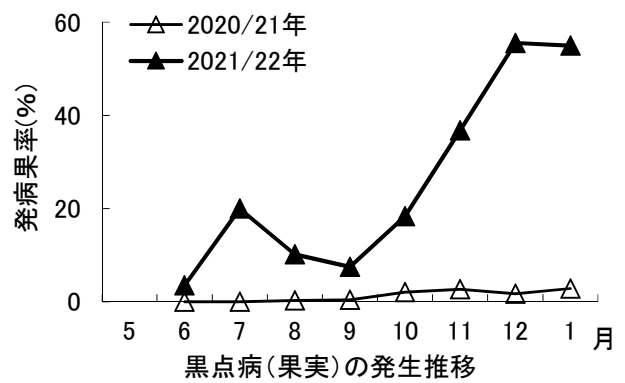
作物	かんきつ（タンカン）		地域	沖縄群島	
病害虫名	② 黒点病				
調査結果	7 月の発生量（平年比）	並			
予報	7 月からの増減傾向	→			
	8 月の発生量（平年比）	並			
予報の根拠		平年の発生量の推移（→）			

調査結果

今期と平年の推移




過去2年の推移



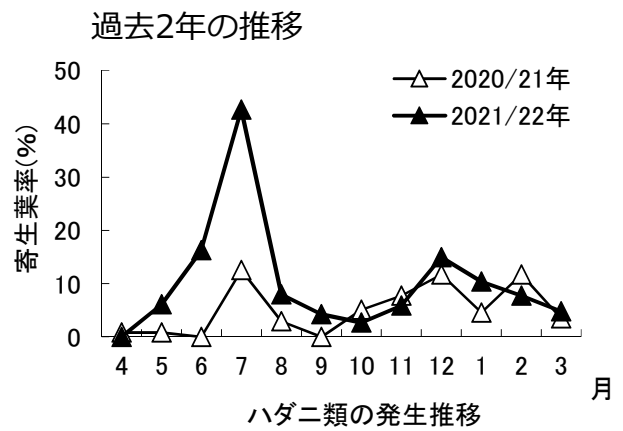
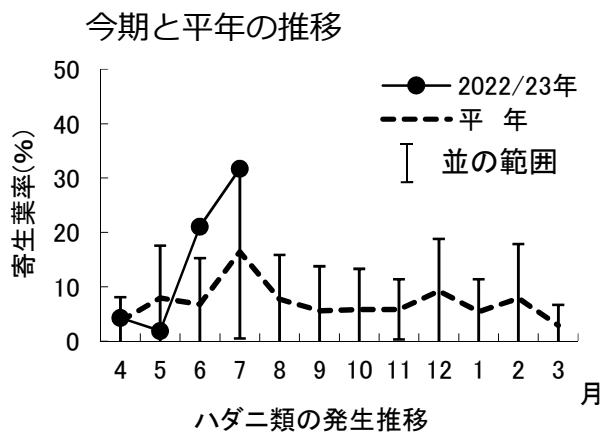
- ・ 果実の発病度 0.6（平年 0.7）
- ・ 発生ほ場率 100%（平年 5.7%）

防除のポイント

- ・ 周辺の防風樹も含め、枯れ枝は除去する。
- ・ ほ場内の通風、採光を良くするために、間伐、せん定等の管理を徹底する。

作物	かんきつ（タンカン）	地域	沖縄群島
病害虫名	③ ハダニ類		
調査結果	7 月の発生量（平年比）	並	
予報	7 月からの増減傾向	↓	
	8 月の発生量（平年比）	並	
予報の根拠		平年の発生量の推移（↓）	

調査結果



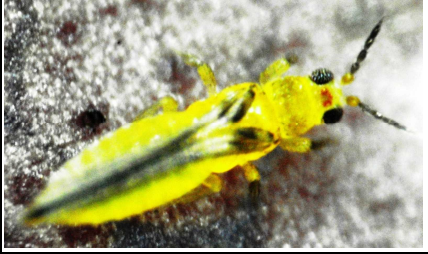
- ・発生ほ場率80.0%（平年43.2%）
- ・病害虫防除員の報告によると発生程度は多であった。

防除のポイント

- ・薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。

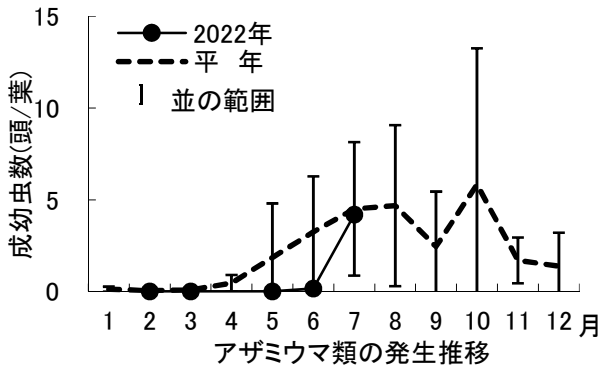


ハダニの寄生による葉のかすれ症状

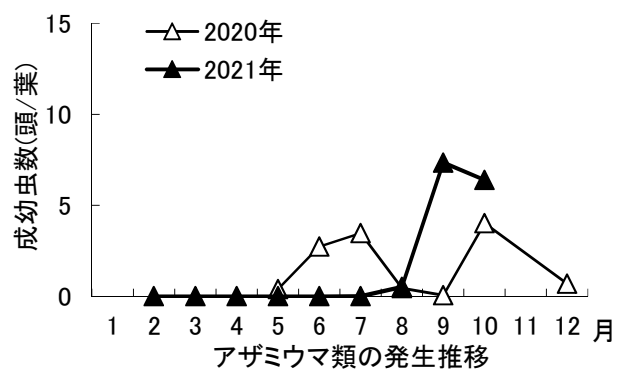
作物	マンゴー	地域	沖縄群島	
病害虫名	① チャノキイロアザミウマ			
調査結果	7 月の発生量 (平年比)			並
予報	7 月からの増減傾向			↗
		8 月の発生量 (平年比)	並	
予報の根拠		平年の発生量の推移 (↗)		

調査結果

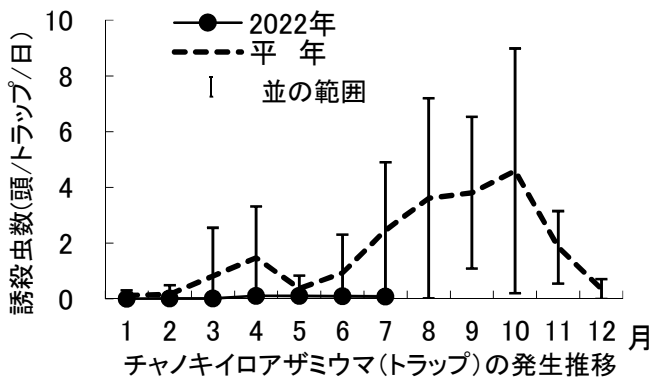
見取り調査：今期と平年の推移



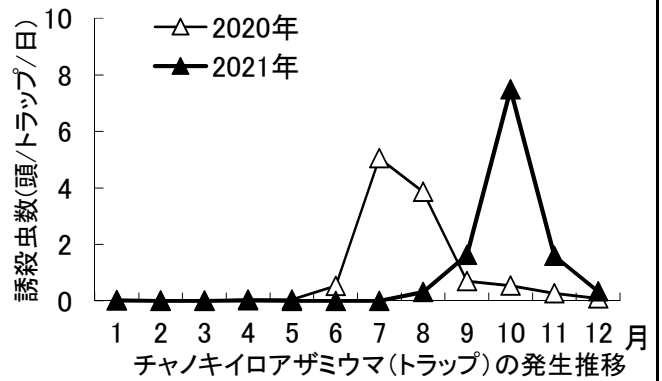
見取り調査：過去2年の推移



トラップ調査：今期と平年の推移



トラップ調査：過去2年の推移




・発生施設率 50.0% (平年値 76.9%)

防除のポイント

- ・不要な新梢は本種の発生を助長するので、早い時期に除去する。
- ・コミカンソウ類など、発生源となる施設内外の雑草を除去する。
- ・収穫期に発生が多かった施設では、せん定終了後に薬剤による防除を行う。
- ・薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。

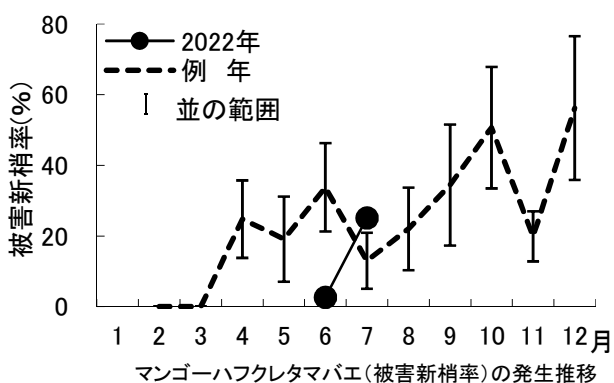


ナガエコミカンソウ

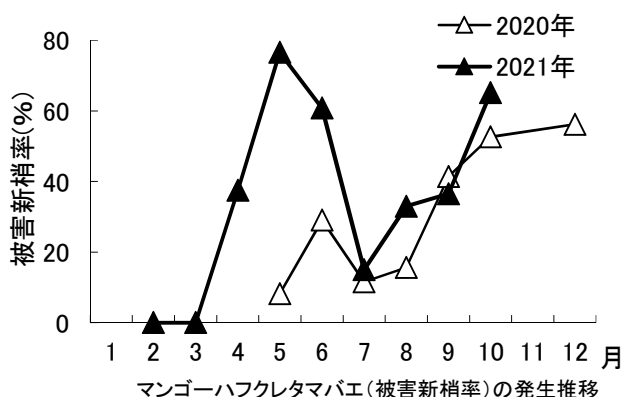
作物	マンゴー	地域	沖縄群島
病害虫名	② マンゴーハフクレタマバエ		
調査結果	7 月の発生量 (平年比)	やや多	
予報	7 月からの増減傾向	↗	
		8 月の発生量 (平年比)	やや多
予報の根拠		平年の発生量の推移 (↗)	

調査結果

今期と平年の推移



過去2年の推移




・発生施設率 50.0% (平年値 90.9%)

防除のポイント

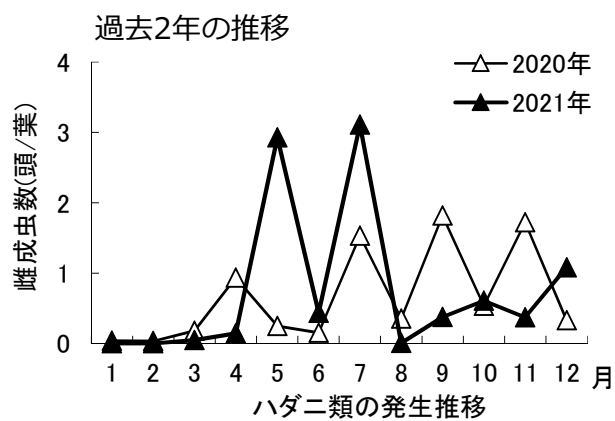
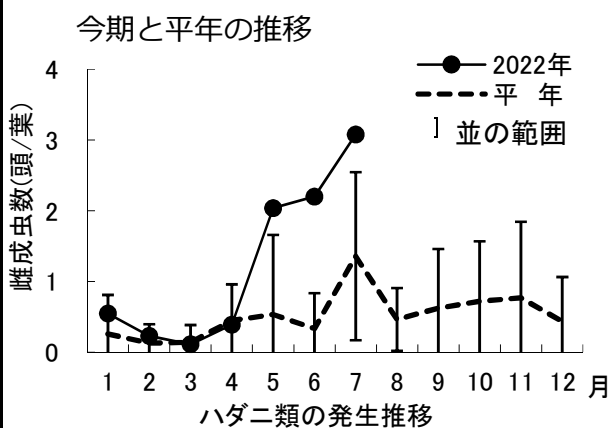
- ・ 幼虫は、新葉から新梢の軸までの柔らかい組織内に潜行して食害し、成熟すると飛び出し、地面に落下して蛹化する。
- ・ 不要な新梢は本種の発生を助長するので、早い時期に除去する。



被害葉

作物	マンゴー	地域	沖縄群島
病害虫名	③ ハダニ類		
調査結果	7 月の発生量 (平年比)	やや多	
予報	7 月からの増減傾向	↓	
		8 月の発生量 (平年比)	やや多
予報の根拠		平年の発生量の推移 (↓)	

調査結果



- ・発生種 シュレイツメハダニ、マンゴーツメハダニ
- ・発生施設率 75.0% (平年59.7%)

防除のポイント


- ・収穫終了後の防除を徹底する。
- ・薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。



ハダニの寄生による葉のかすれ症状

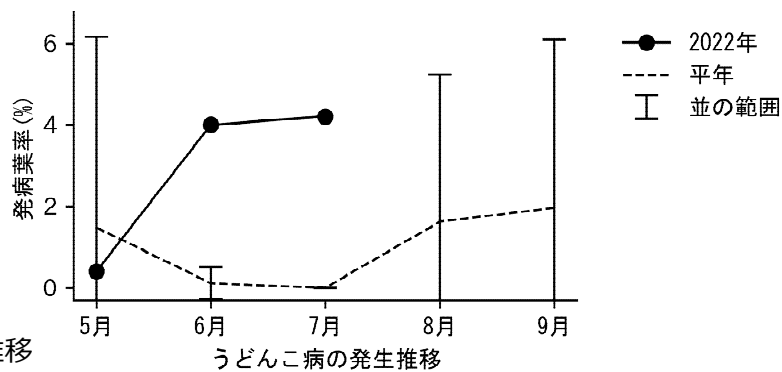


マンゴーツメハダニ

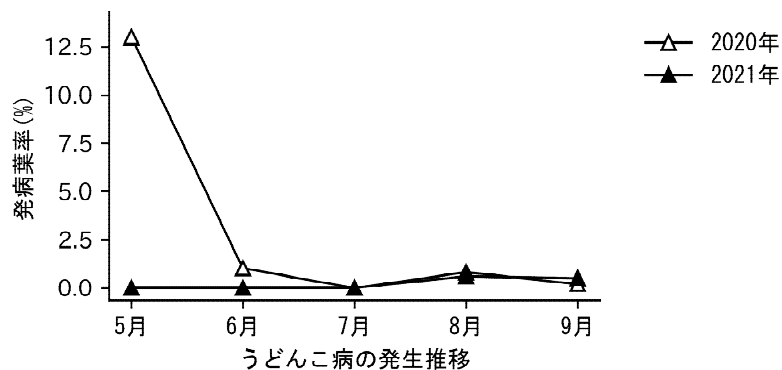
作物	オクラ	地域	沖縄群島
病害虫名	① うどんこ病		
調査結果	7 月の発生量 (平年比)	やや多	
予 報	7 月からの増減傾向	↗	
	8 月の発生量 (平年比)	やや多	
予報の根拠		平年の発生量の推移 (↗)	

調査結果

今期と平年の推移



過去2年の推移



- ・一部ほ場で発生
- ・発生ほ場率20.0% (平年：0%)

防除のポイント

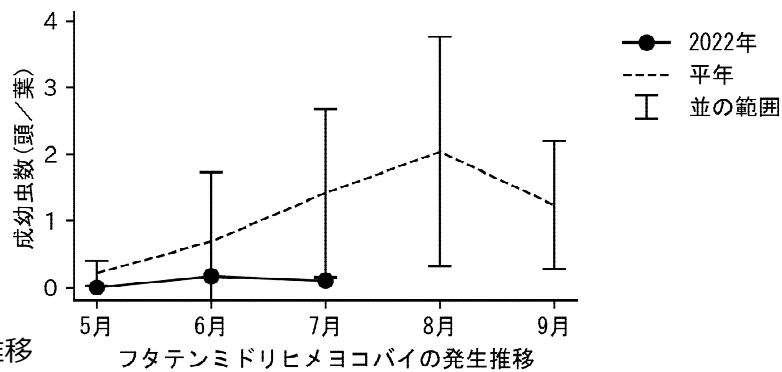
- ・下位の罹病葉や残葉は速やかに除去し、風通しを良くする。
- ・窒素過多にならないようにする。
- ・草勢を維持し、適切な施肥管理を行う。

作物	オクラ	地域	沖縄群島
病害虫名	フタテンミドリヒメヨコバイ		
調査結果	7月の発生量(平年比)	やや少	
予報	7月からの増減傾向	↗	
	8月の発生量(平年比)	並	
予報の根拠		平年の発生量の推移(↗)	

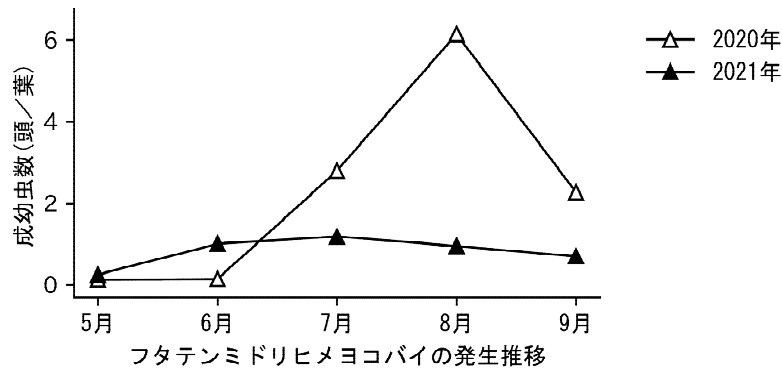


調査結果

今期と平年の推移



過去2年の推移




・発生ほ場率60.0% (平年：71.1%)

防除のポイント

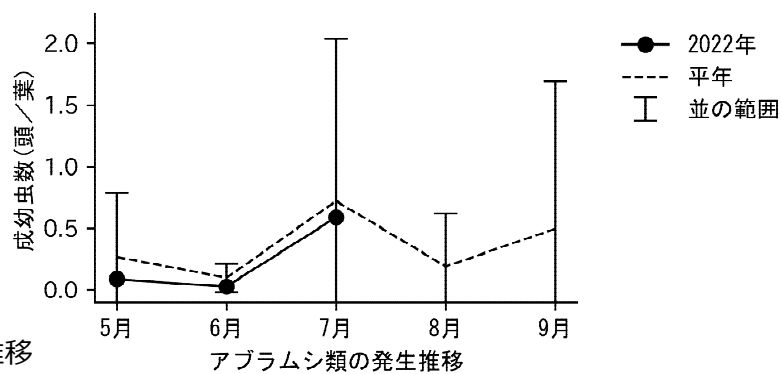
・多発すると被害葉は黄変萎縮するので、葉裏を観察し、早期発見・防除に努める。



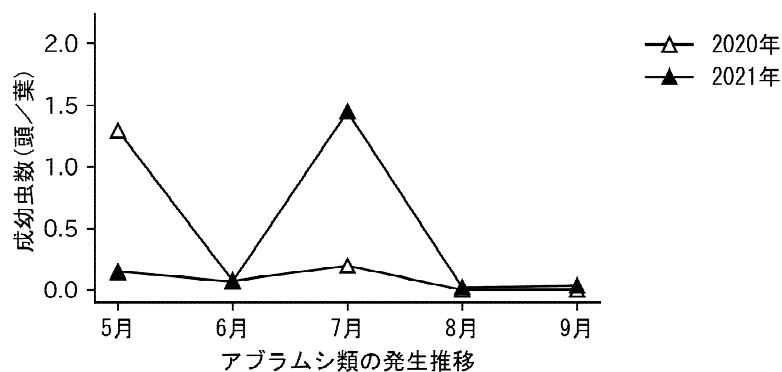
作物	オクラ	地域	沖縄群島
病害虫名	アブラムシ類		
調査結果	7 月の発生量 (平年比)	並	
予報	7 月からの増減傾向	↓	
	8 月の発生量 (平年比)	並	
予報の根拠		平年の発生量の推移 (↓)	

調査結果

今期と平年の推移




過去 2 年の推移



・発生ほ場率80.0% (平年 : 26.7%)

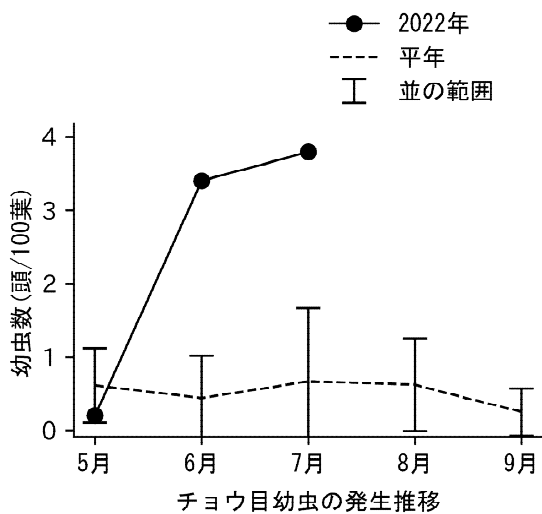
防除のポイント

- ・多発すると新葉の萎縮や芯止まりにより生長が阻害されるため、葉裏をよく観察し、早期発見・防除に努める。
- ・発生源となるほ場内外の雑草を除去する。

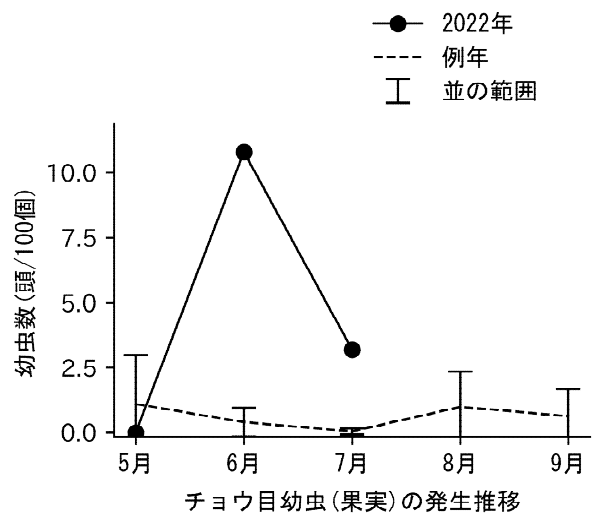
作物	オクラ	地域	沖縄群島
病害虫名	② チョウ目幼虫		
調査結果	7 月の発生量 (平年比)	やや多	
予報	7 月からの増減傾向	→	
	8 月の発生量 (平年比)	やや多	
予報の根拠		平年の発生量の推移 (→)	

調査結果

今期と平年の推移



過去 2 年の推移



- ・発生種：ハスモンヨトウ
- ・発生ほ場率：葉80.0% (平年：22.2%)、果実80.0% (平年：5.0%)

防除のポイント

- ・発生密度が低い場合は、捕殺が有効である。
- ・老齢幼虫に対しては薬剤効果が低減するので、若齢幼虫による食害痕を発見したら、速やかに薬剤を散布する。

